sample

90-20-5391

慶應義塾大学ビジネス・スクール

若年社員のワークハラスメント

僕（B 君、25 歳）は今、女性社員の多い部署にいます。直属の上司である課長は男性ですが、部長は女性で、周りの同僚も僕より年配の、30 代、40 代の女性が多いのです。この部署に 20 代の男性が配属されることは少なく、僕がこの部署に配属されたときは珍しがられました。そのせいか、何かにつけて「かわいい」と言われたのです。褒めてもらっていたのかもしれませんが、あまり嬉しくはありませんでした。仕事で少しでもミスがあると、「取り柄は顔だけ？」とか、「かわいくて許してもらえるのは、若いうちだけだからね。」と言われます。次第に子ども扱いされているとしか思えなくなりました。

そして、とにかく力仕事は何でも僕に回ってきます。平均的に男性の方が女性よりも腕力は強いでしょうから、最初は仕方ないかなと思っていました。でもある日、販促グッズが大量に届いた時、僕一人で大きな段ボール箱を何箱も移動させられました。このグッズの企画担当の先輩（女性）は知らん顔を決め込み、同じ部署の他の同僚も、「あなた男なんだから、これくらい平気でしょ。」と言って手伝ってくれませんでした。

配属後、半年くらい経った頃でしょうか。新しい仕事の企画のために一人で残業していました。そこへ会議から戻った部長が僕を見つけ、「B 君、今日はもう切り上げたら？ お腹空いてるでしょう。ご飯行こう。」と、珍しく夕食に誘ってくれたのです。普段は部下に対してとても厳しいことでよく知られた部長です。こんな風に優しく声をかけられたのは初めてでした。僕の仕事ぶりを認めてくれているのかなと、嬉しくなりました。企画を上に通し易くするためにも、部長にあらかじめアイデアを話しておきたいという気持ちもありました。そこで、一緒に食事に行くことにしました。

連れて行かれたお店は会社の近くにある人気のスペイン風バルで、その夜もとても混んでいました。角の狭い席しか空いておらず、そこに通されました。ほどなく部長はワインと料理を注文し、僕もいくつか小皿料理を選びました。料理を待つ間、ワインを飲みながら仕事がらみの会話が続きました。仕事には慣れたかとか、企画書はどの程度進んでいるか、などです。しかし、少し酔いが回ってくると、部長が僕の肩を触ったり手を握ったりしてきました。僕はびっくりしました。周りの人に見られて誤解されはし

このケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール准教授 山尾佐智子がクラス討議の資料として作成した。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクールまで（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。ケースの購入は http://www.bookpark.ne.jp/kbs/ から。

Copyright © 山尾佐智子（2020 年 6 月作成）

ないかと、とても心配にもなりました。お酒に酔うといつも以上に親しげな行動に出る人は、初めてではありません。しかし部長の場合、冗談でぽんと背中をたたくような、そんな軽い感じではなかったのです。

「彼女はいるの？」と、プライベートなことも聞かれました。僕は非常に居心地が悪くなりました。しかし、急に立って帰るわけにもいかず、じっと我慢して時間が経つのを待ちました。あれこれ言葉を濁してプライベートな話題を避けようとしましたが、かなりしつこく同じことを聞かれ、挙句の果てに「今度のバレンタインはどうするの？ 彼女がいないのなら私と過ごしなさいよ。」と言われました。答えに窮しましたが、酔っての発言ですし、冗談だと思うしかないと自分に言い聞かせました。

食事が終わって会計を済ませ、やっと解放されると思って駅に向かおうとすると、部長がタクシーを拾ってほしいと言いました。仕方なく僕はタクシーを呼び、部長を見送ろうとしました。しかし、部長は一緒に乗るようにと言うのです。僕は、レストランでの嫌な会話や体に触られたことを思い出して警戒しました。とっさに、「すみません。僕はお酒が入ると車酔いがひどくなるので、ご迷惑ですから。」と言いました。部長は「ふーん、そう …。」と言い、そのままタクシーごと去っていきました。少し怒っていたようにも見えましたが、気にしすぎかもしれません。僕はタクシーが遠ざかっていくのを見て、ほっとしました。

自宅への帰り道、僕はこれからこの会社でどうすればいいのだろうと考えこんでしまいました。今の会社は再就職先で、実は以前いた会社では、男性の先輩や上司から嫌なことをさんざん言われ、それに耐えかねて転職を決めたのです。以前は営業部にいて、取引先を接待することもあったのですが、そういった時に先輩から「B、お前、お客さんの前ではちゃんと男を見せろ。脱げ！」と言われ、嫌々ながら上半身裸で大声で歌わされたことがありました。そうかと思えば、「そんなに細いと女にモテないだろう。もっと食べろ。」と言われ、お腹いっぱいなのに脂っこいものを必要以上に食べさせられ、気持ち悪くなったりもしました。卑猥なことを言う上司もいて、自分の女性経験をしつこく聞かされたり、また、僕の女性経験についてチームの前で話すよう強要されたりしました。うまく返せないでいると、女性経験が未熟であると笑われ、「お前、女じゃなくて男が好きなタイプか？」と言われたことも一度ではありません。大勢の前で晒し物にされるようで、とても辛かったのを憶えています。次第に、その会社では女性の同僚にも「B 君ってゲイなんだってね。」と噂されるようになりました。そんな経験があるので、今の職場でも同じようにからかわれたり、馬鹿にされたりするのが余計に辛いのです。

もし今の職場でもうまくやって行けないのだとしたら、僕はどこかおかしいのでしょうか？ [1]

---

[1] このケースは東洋経済オンラインに 2018 年 4 月 23 日掲載の村田らむ著「男が受けるセクハラ被害が軽視される不条理」（https://toyokeizai.net/articles/-/217929、2020 年 5 月 8 日アクセス）と、NHK『クローズアップ現代＋』ウェブサイト内、『みんなでプラス』コーナーから、「“ 性暴力 ” を考える、シリーズ Vol. 28、男性セクハラ被害の実態は」（https://www.nhk.or.jp/gendai/comment/0006/topic030.html、2020 年 5 月 8 日アクセス）の中に掲載されたエピソードを基に構成した。

不許複製

慶應義塾大学ビジネス・スクール